



郷土食礼賛と文化発信 「高知県観光特使」名刺

金丸弘美
食総合プロデューサー

高知県から「高知県観光特使」の名刺が今年も届いた。毎回来しみだ。

「高知県観光特使」の名刺は、年度ごとにテーマがありデザインも異なる。2021年は「あなたの新休日」で絵柄は川でカヤックを漕ぐ人。そして2022年は「高知の味曜日」で食がテーマ。よく観たら、今年は4種類が作成されていた。

高知の名物、かつお(春)、あかうし(夏)、田舎ずし(秋)、うつば(冬)のデザイン。嬉しそうに食を人が囲んでいる。かつおは魚の鰹。あかうしは高知独自の褐色をした牛。田舎ずしは山間地で魚のないところで生まれた郷土食で、高知特産の柚子酢でしめ、ミョウガや椎茸、タケノコ、コンニャクなどを種にして握った彩りも楽しい寿司だ。

****★ 高知の食は、
つくる人が熱々。

高知の味曜日

高知観光キャンペーン
「ウーマの休日」
令和5年3月31日まで開催
あなたの新休日

高知県観光特使
金丸弘美
食総合プロデューサー
〒530-0001
大阪北区梅田1-2-2-1200
大阪駅前ビル12F 南万葉社
tel. 06-6348-0357
fax 06-6348-0356
E-mail: kanamaru.hirumi@cameo.plala.or.jp

高知県観光振興部観光政策課おもてなし室
〒780-8570
高知市丸ノ内1-2-20 高知県庁5F
Tel.088-823-9609 Fax.088-823-9256

高知県観光施設等無料入場券

●各施設1回限りとし、5名まで無料で入場可能。(5名以上の入場は有料となります。)
●団体・グループでのご利用は1施設あたり(10名でご利用はできません)
●ただし、**高知市以外に居住の方のみ**が職員が確認させていただく場合があります。

●高知市(複製) 088-824-5701 ●川村をのめ川でカヤック 0887-32-1233
●高知県立美術館 088-866-8000 ●安芸市立歴史民俗資料館 0887-34-3706
●高知県立文学館 088-822-0231 ●高知市立自由民権記念館 088-831-3336
●高知県立船木歴史記念館 088-841-0001 ●山形一志会せんが屋 088-853-5029
●高知県立歴史民俗資料館 088-862-2211 (令和4年4月1日～令和5年3月31日開催) ●山形一志会せんが屋 088-853-5029
●高知県立教育博物館 088-862-2001 ●山形一志会せんが屋 088-853-5029
●高知県立生涯学習館 0880-85-0635 ●あとりすとパークおとと 0887-72-0700
●高知県立のしい動物公園 0887-56-3500 ●城野町立城野山自然の森博物館 0889-29-1066
●牛ノ木七宝亭 電話 0887-25-3377 ●ののやっぴー 0880-05-0137
●中津島温泉 0887-38-9600 ●高知県立高知城歴史博物館 088-871-1600

●詳細は各施設に、事前に電話・後援団体の担当者に問い合わせます。
●各施設は、団体・個人の入場料の異なる場合があります。
●高知市以外に居住の方のみが職員が確認させていただく場合があります。
●令和5年3月31日まで有効です。

うつばは、どう猛な細長い魚だが白身で美味だ。名刺はQRコードがあり高知県の食のガイドや割引の特典キャンペーン一覧が飛び出してくる。名刺の裏が「高知県観光施設等無料入場券」になっていて、高知城、県立美術館、県立坂本龍馬館、県立牧野植物園、県立足摺海洋館など20か所の文化施設が5名まですべて無料で入れる。名刺を人に渡すと、とても喜ばれるのだ。

つい最近、香川県の瀬戸内海にある女木島を訪ねた。高松市の港からフェリーで20分のところにある。高松の知人、三島光春・恵子夫妻が古民家を購入し住まいと隣にアンティークを集めたカフェ「鬼ヶ島倶楽部」があり、そこで泊っていた。カフェの名前は女木島には桃太郎に出ている鬼が住んでいたという伝説から採られている。

光春さんが「高知県観光特使」の名刺をいたく気に入ってくださり、カフェに訪れるお客さんに「ね、名刺あげて」と言われ名刺を差し上げることになった。すると光春さんが名刺の解説をする。「この名刺を高知県にもっていくと文化施設20か所が5名までただで入れるんですよ! 割引ではないんですよ! 無料ですよ!」

するともらったお客さんが「ええ、ほんとですか。もらっていいんですか」と、すごく驚かれる。横でお客さんの顔を覗いていると、ほんとにびつ

名刺表面はかつおを囲む人。裏面の入場券は2年間の期限付

くりされる様子で、こちらが嬉しくなる。
また新しいお客さんが見えると「ねっ、名刺あげて」と、名刺を渡すことに。するとまた名刺の解説が始まる。もっていた名刺をすべて配布することとなった。

香川県は高知県と繋がっているのです、すぐに行く。だから、カフェの来るお客さんも高知によく行くという方も多く名刺の喜ばれようはすごかった。あまりに好評だったので、東京に戻り、さらに100枚を追加で送らせていただいた。

私が「高知県観光大使」を拝命したのは2011年。高知県の「ゆずポン酢」で有名な馬路村農協を始め各地の食の地域づくりを紹介した本「田舎力 ヒト・カネ・モノが集まる5つの法則」(NHK生活人新書)を読んでくださった県庁の矢野喜秋さんから連絡があり高知県知事直轄事業・農業人材育成創造事業総合アドバイザーになってほしいと言われ、2010年から2015年まで毎月高知県に伺うこととなった。高知県の各地を訪ね、食の地域づくりを役場や地域の方々と一緒に考え、形にしていくことが始まった。

同じころ、角川書店(現KADOKAWA)から連絡があり高知県出身の小説家・有川ひろさん



名刺の写真。あかうし(右上)、田舎ずし(右下)、うっぽ(左上)

が、私の本を読んでくださり、県庁の職員との座談会が実現することになった。

県庁を舞台にした『県庁おもてなし課』の新聞小説を連載されていて本になつたら座談会も収録するという話だった。しかし小説に座談会が載るのか半信半疑だった。ところが小説が出て本屋でみたら座談会が掲載されている。このあと3・11東日本震災が起こる。有川さんのホームページには、被災地支援で印税を寄付するとあった。

私もせめて本を買ってPRでもと思ひ角川書店に連絡をして50冊をお願いした。送られてきた本は、すべてサイン入り。ところが請求書がない。それで問い合わせたら「プレゼントします」とのこと。驚いた。そこで知っている限りの発信力のある方々にお贈りした。するとほとんどの方々が丁寧にお手紙をくださった。なかには小説に出てくる地域をすべて巡り感想をくださった方もいた。それらの手紙をコピーしてファイルにし、尾崎正直高知県知事(当時)と角川書店にお送りした。すると県から「観光大使になってください」と連絡がきたというわけだ。角川書店からは電話があり「ここまでしてくださったのですか」と言われ「これくらいでできませんから」と言ったら「あと50冊送ります」とさらに50冊が届いた。それでまた発信力のある方々に贈呈をしたというわけだ。小説を読むと「観光大使」の名刺のことも小説の重要テーマとして出てくる。ほかにない特徴ある名刺にするために無料入場券付きにすることも書いてある。つまり小説と「観光大使名刺」は見事にリンクしていてドラマにもなっているのだ。しかも高知県に「県庁おもてなし課(現在は、おもてなし室)」は実在する。現在、高知県観光大使には有川ひろさん始め、吉田類さん、林真理子さんなど501名の方々が任命されている。